

第37回労働リーダーシップ上級コース

労働リーダーシップコース活動報告

IMF-JCは、結成以来、労働組合リーダー育成に力を入れ、労働リーダーシップコースの上級コースと基礎コースを毎年開講している。ここでは、過去2年間の労働リーダーシップコースの活動報告を紹介する。金属・ものづくり産業という共通する土俵の中で、単組・企業連・産別の枠を超えての労働リーダーシップコースは、次代を担い切り開きゆくユニオンリーダーとして必要不可欠な視野を拡大し、幅広い専門知識を身につけ、幅広い深い人脉づくりに格好の場を提供している。



第37回上級コース開講式(明治学院大学記念館)

受付口ヒールでは、半年ぶりにお会いするIMF-JC事務局の皆さんのお元気そうな顔、顔、挨拶を交わすなかで、半年間の空白は瞬く間に消える。お五の近況報告の間にも懐かしい顔が全国各地から次々と集まってくる。今日はここで労働リーダーシップ上級コースのフォローアップ研修が開講されるのだ。

そもそも、この面々と初めて出会ったのは、2003年10月に行われた第37回労働リーダーシップ上級コース開講式である。アイシン労組の藤江、富士労連の中川、住友電工労組の松本、富士通労組の成瀬、関西自工労組の小林、マツダ労組の久重、スズキ労組の田口、三菱重工労組の山口、同労組の倉永と総勢9名の受講生である。明治学院大学記念館チャペルでの厳かな雰囲気の中で行われた開講式から過問に亘った研修は、前半が大学での社会・企業・労働運動それぞれの変遷に関する講義後半がメロンディアでのプレゼン・ティベート・カウンセリングなどの実習、更に全期間を通じたセミナーで構成されていた。大学では成績不良学生の気分を、メロンディアでは新人研修の気分をそれぞれ久しぶりに満喫し、最終日に各人がセミナーのまとめを発表したシンポジウムでは、文字通り響る間も

「金属労協の新しい運動の変化を踏まえ、金属産業の政策づくりを推進し、新たな労使関係を構築できる人材を養成する」ことを目的とする、第37回労働リーダーシップ上級コースが、2003年11月10日から11月22日まで2週間の日程で開催された。第37回上級コースには、加盟産別の企業連・単組から代表9名が受講した。

受講生は、「3つの大きな変化を読み、労働組合の戦略を考える」ために、1週目は都内港区白金台の明治学院大学キャンパスにおいて、講義を通して、「社会の変化」と「企業の変化」を学び、2週目は横浜市にある三菱電機労組研修センター「メロンディアあざみ野」に全員合宿して、鈴木議長による「新たな時代に対応する労働組合活動」、園野事務局長による「金属労協の取り組み課題と挑戦」、小島顧問による「国際化と多国籍企業の労使関係」など「金属労協の運動の変化」について学

習しでの準備となった。

私自身、今回の上級コースで経験したほど、労働問題について深く集中して考えたことはかつて無かった。また、今後直面するであろう諸課題に対して、問題を整理し、状況を分析し、戦略を立てて実行する方法論の一端を学ぶことができたと考えている。加えてフォローアップ研修では、半年前と比べ、より深刻化した状況や思うように改善が図れない状況も報告され、社会や企業を取り巻く環境変化の速さと対応の難しさを再認識できた。限られた時間の中ではあったが、共に学んだ同期生としての結び付きを大事に育てること、或いは研修を通じて得られた知識や経験を今後の活動に活かすことを改めて心に期するものである。

最後に、研修でご教授いただいた講師には大いに感謝を申し上げるものである。とりわけ全般を通じてご教授・ご指導いただいた明治学院大学の太平教授と神田教授には万感ごちこも唯々感謝の念ばかりである。渡辺氏、山口女史をはじめとする事務局の方々にも頭の下がる思いで一杯である。併せて今回の研修の機会を与えていただいたIMF-JC並びに関連各組、その他がかわった大勢の方々に深く感謝申し上げます。研修



カウンセリングの講義・実習

んだ。また、明学の太平・神田両教授を指導教授とする、4回にわたるセミナーでは、労組や職場で現在抱えている諸課題を持ち寄り、それらの課題に共通する問題点を掘り下げて、解決策について話し合い、各人でその成果をレポートにまとめた。

この他、組合上級リーダーとして必要な実践スキルとして、「戦略づくりノウハウ」、「プレゼンテーション能力」、「カウンセリング能力」、「ディベ

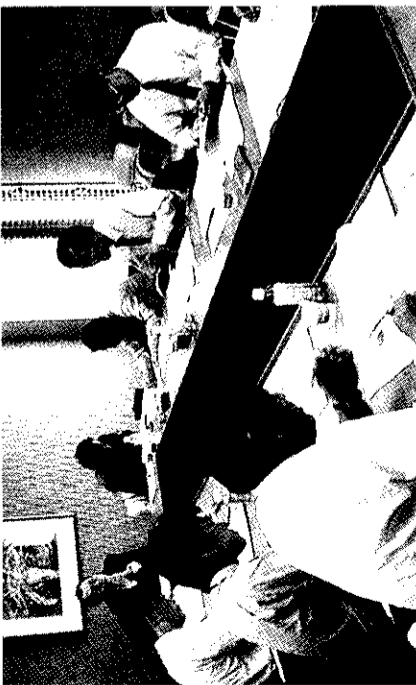
を振り返つての感想とさせていただきます。

◎受講生レポート一覧(受講生役職は参加当時のもの)

受講生が2週間のセミナーを通じて各自の組合・職場での課題について議論、研究してまとめたレポートのテーマは以下の通り。

【太平ゼミ】

- 「今、組合執行部が問われている―執行部が持つべき労働組合



第37回上級コース・フォローアップ研修会(2004年5月)

ト能力」を関連付けて習得するアクティブ・アプローチも学んだ。

講義最終日の11月21日には、コース総括としてシンポジウムを開き、各人がアクティブ・アプローチで学んだスキルも活用しパワーポイントを使ってその成果を発表しあつた。

◎受講生代表学生長コメント

IMF-JC第37回労働リーダーシップ上級コース及びフォローアップ研修を振り返って



三菱重工労組高砂支部/倉永誠史
2004年5月、初夏を思わせる陽気の中、横浜市にある三菱電機労組の研修・保養施設メロンディアあざみ野を訪れた。

観とは」その後の経験と考察(成瀬 彰/富士通労組ソフトサービス支部副委員長)

- 「国内出向者の満足向上」(久重 重正/マツダ労組日城組織部長)
- 「執行部の考え方を職場に伝えるために」(田口 卓/スズキ労組副委員長)
- 「コミュニケーションのよい労働組合をめざして―職場協議会の活性化に向けて」(山口 光一/三菱重工労組高砂製作所支部執行委員)

【神田ゼミ】

- 「総労働時間問題」(藤江 亨/アイシン労組アイシン・エイ・ダブリエ支部中央執行委員)
- 「自分たちの組合活動が日本を変える」(中川 文蔵/富士労連中央執行委員)
- 「生活支援力向上への取り組み―組合活動のより一層の充実を図るために」(倉永誠史/三菱重工労組名古屋誘導推進システム製作所支部執行委員)
- 「企業の方社化に対応した組合組織の変革」(松本 圭司/住友電工工業労組書記長)